来的な管理運営のあり方についてお伺いします。

(答)**市長**　今現在、アウトソーシング可能なものは134事業あり、管理の手法を、①施設の民営化、②指定管理者制度の導入、③基幹部分を直営として個別業務のアウトソーシング、④基本的にすべての管理を市が直営で行う等の4つに区分し、それらに適した最適な手法を選択していき、可能なものからアウトソーシングを進め、市は自ら実施することが必要な施設管理のみを行っていきたい。今後、市民の皆様により良い公共サービスを提供していく中で、NPOや市民団体の皆様にも市がアウトソーシングを進める様々な業務を担っていただけるよう検討していただければと考えています。

指定管理者制度導入予定の市民交流センターおあしす

また、導入の時期については直営を継続する公共施設を除いて、概ね3年以内、5年以内、10年以内の3期に分けて計画をしています。今現在、見直し作業を進めており、内容がまとまり次第、行財政改革推進プランの素案に盛り込み、パブリックコメントを経た上で改定していきます。

新駅の設置は百年の大計に立って決断を

中武 紘一

(問)　私は今期で議員を引退します。4期16年ご指導ご鞭撻いただいた議員の皆様、執行部・職員の皆様に心より感謝御礼申し上げます。最後の質問ですので吉川市にとって百年の大計と言える事業、武蔵野操車場跡地及び周辺地区整備は、市の一大プロジェクトです。吉川市総合振興計画に、新駅を中心とした各種都市機能を備えた複合新拠点と位置づけ、市議会でも3月議会で、後期基本計画を承認しました。新駅設置及び周辺開発の進捗を伺います。

(答)**市長**　JRより、総事業費上限78億円、吉川市負担49億円、JR負担29億円が提示され、現在鉄道運輸機構と49億円の負担割合について協議中。できるだけ市の負担が少なくなるよう交渉する。年内に締結し23年度開業ができる。周辺開発については、新駅設置が決まり次第進めていきたい。

(問)　財政厳しい中、何で新駅設置かとの意見がある。平成19年度中に処分を完了の期限が定められているのではないか。

(答)**都市建設部長**　国土交通省の中期計画に位置付けされておりご指摘の通りです。

(問)　市の費用負担減のため、鉄道運輸機構に最低3分の2位は負担の交渉を。見通しは。

(答)**都市建設部長**　わが市の財政事情を考慮していただいている。できるだけの努力をする。

(問)　UR都市機構は受益大だ、負担の交渉を。

(答)**都市建設部長**　交渉します。

(問)　周辺地区開発の関連機関との協議状況は。

(答)**都市建設部長**　新駅設置で農振解除等が促進されます。

(問)　固定資産税の見込は。

(答)**総務部長**　30ha内約1億1千万円以上の増収が見込まれます。

(問)　「芸術文化の街づくり」のコンセプトを堅持してもらいたい。

(答)**都市建設部長**　中武議員ご提案のとおり進めてまいります。

農業行政 耕作放棄地の解消について

岡田 喬

(問)　農業に魅力がないから後継者がなく、高齢化も手伝って耕作されず放置された農地が市内でも増加傾向にあります。耕作放棄地の解消について市の考えを伺います。

(答)**市長**　耕作放棄地の問題は全国的に大きな問題となっております。当市では、農業委員会やJAと連携し、耕作放棄地を解消し、農地の維持・管理に努めていくため、「農地利用集積計画事業」に取り組んでおります。この事業は、耕作や管理ができない農家から委託希望を募り、規模拡大を目指している担い手農家などに紹介を行い、期間や賃貸借などの利用権を設定し、耕作や管理をするものであります。また、農業委員会は、現地調査を行い、維持・管理に努めるよう指導しています。今後、後継者や新規就農者の確保、農地の保全に取り組んでまいります。

内川橋交差点整備について

(問)　工事区域通行の一般利用者、通学路の安全確保と整備内容について伺います。

(答)**都市建設部長**　県では、交通事故の削減と渋滞緩和を目的として右折帯を設置する工事を平成19年度完成を目指し実施しております。整備内容は、工事延長が400mで幅員3mの右折帯を設置し、合わせて歩道を3.5mに拡幅するものです。また、工事中の安全確保については、迂回路を設けて、車道と歩道を分離し、誘導員を配置して歩行者などの安全を確保しながら工事を進める、と聞いています。

狩猟区域の規制について

(問)　近隣5市1町においても吉川・松伏の一部を除いて禁猟区域である。安全安心、自然保護のためにも禁猟区域に指定を。

(答)**市民生活部長**　自治会等の要望を関係機関に働きかけます。